

## Serum 1,25-dihydroxyvitamin d and the development of kidney dysfunction in a Japanese community : The Hisayama Study

伊豆丸, 堅祐

<https://hdl.handle.net/2324/1500557>

---

出版情報 : 九州大学, 2014, 博士 (医学), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 : やむを得ない事由により本文ファイル非公開 (2)

(別紙様式2)

氏名	伊豆丸 堅祐			
論文名	Serum 1,25-Dihydroxyvitamin D and the Development of Kidney Dysfunction in a Japanese Community -The Hisayama Study-			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	松尾 恵太郎
	副査	九州大学	教授	内藤 誠二
	副査	九州大学	教授	萩原 明人

### 論文審査の結果の要旨

ビタミン D 不足が腎機能障害に関連することが報告されているが、アジア人において、1,25(OH)2D の不足が将来の慢性腎臓病(CKD)の発生に影響するか否かに関する知見は乏しい。本論文では、久山町研究データを用い、この関連を検討している。

申請者は、2002年から2003年の間に久山町研究に登録され、適格条件（同意有り、血液検体有り、1,25(OH)2D測定が可能な検体有り、eGFR60ml/分/1.73m<sup>2</sup>以上）を満たす2,819名の一般住民の集団に対し、2002-2003の血清中1,25(OH)2Dを測定した。1,25(OH)2Dの値を4分位と、2007年調査時点での1) CKD (Stage 3-5)の発生、2) eGFR値の関連を、ロジスティック回帰分析、重回帰分析により、検討した。要因と従属変数との関連は、性、年齢、収縮期血圧、抗高血圧薬、HbA1c、総コレステロール、HDLコレステロール、蛋白尿の有無、BMI、喫煙、飲酒、運動習慣、eGFRの影響を補正して評価を行った。その結果、血清1,25(OH)2Dの値は、その後のCKDの発生、eGFR値との間に統計学的に有意な負の相関を認めた。これらより、ビタミンDがCKDに対して予防的な効果を示す可能性を、メカニズムなどの知見を交えて考察を行った。また、ビタミンDの予防的な投与の効果に関しては、無作為割付試験を含めた前向き研究での検証の重要性を示唆した。

以上の成績はCirculation Journal誌に掲載され、この方面の研究として意義有る成果であると考えられる。本論文についての試験において、研究目的、方法、研究結果についての説明を求めた。さらに、各調査委員より専門的な観点から各種質問を行い、概ね満足すべき回答を得た。

以上より、調査委員合議の結果、試験は合格であると判断した。